

令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 【調査結果の概要】

令和4年10月

長野県教育委員会事務局心の支援課

□調査の趣旨

児童生徒の問題行動・不登校等について、全国の状況を調査・分析することにより、教育現場における生徒指導上の取組のより一層の充実に資するとともに、その実態把握を行うことにより、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応、また、不登校児童生徒への適切な支援につなげていくもの。

□調査の主体 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課

□調査項目 いじめ 暴力行為 不登校（長期欠席） 高等学校中途退学 等

□調査期間 令和3年度間

□調査対象 全国の国公私立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の全校

□長野県の結果【概要】

○ いじめの認知件数は9,668件（1,030件増）

- ・学校種別では、小学校の認知件数が増加した。
- ・いじめの解消済みの割合は、全国より高くなっている。

○ 暴力行為の発生件数は1,269件（378件増）

- ・校種別では、小・中学校において暴力行為が増加。内容別では生徒間暴力が最も多く、いずれも全国と同様の傾向となっている。
- ・増加の背景に、新型コロナウイルス感染症の影響からストレスを抱える児童生徒が増えていることなどが考えられる。

○ 小・中学校における不登校児童生徒数は4,707人（905人増）、高等学校では787人（159人増）

- ・不登校児童生徒数は9年連続で増加しており、全国と同様に過去最多となっている。
- ・増加の背景として、休養の必要性等の浸透や、生活環境の変化により生活リズムの乱れやすい状況、制限のある中で交友関係を築くことなど、登校する意欲が湧きにくい状況があったこと等が考えられる。

○ 高等学校中途退学者数は474人（105人増）

- ・中途退学者数は、全国と同様に増加し、中途退学率は0.8%に増加した。
- ・事由別では、「進路変更」「学校生活・学業不適應」が主な理由となっている。

※文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の情報を利用し本資料を作成。文部科学省が都道府県別に公表していない項目等の長野県数値については、統計法第33条に基づく申請の上承諾を得ている。

※構成比は、小数点第2位を四捨五入しているため、計と内訳の合計が一致しない場合がある。